

# 高校地理プリント（過去問類似）

## 地球的課題 No.4

名前

得点

/9

**問1** 都市部における交通渋滞の緩和や、自動車の排気ガス・人工排熱の削減を目指す環境対策の一つで、郊外の駅周辺に整備された駐車場に自家用車を駐車し、そこから鉄道やバスなどの公共交通機関に乗り換えて都心部へ移動するシステムを何というか。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. パークアンドライド      2. カーシェアリング      3. トランジットモール      4. ロードプライシング

**問2** 中国の工業化や冬季の暖房によって発生する硫黄酸化物などの大気汚染物質は、風下に位置する朝鮮半島や日本列島へと運ばれ、酸性雨などの広域的な環境問題を引き起こす。この大気汚染物質を中緯度帯の上空で西から東へと運ぶ、年間を通じて吹く恒常風の名称を答えよ。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. 貿易風      2. 季節風      3. 極東風      4. 偏西風

**問3** 日本付近で火山が噴火した際、放出された火山灰は火口から特定の方向へ広く流され、堆積しやすい傾向がある。これは、日本列島の上空において年間を通じて西から東へと吹いている、地球規模の恒常風の影響によるものである。この風の名称を何というか。 (2026年 全国公立入試 類似)

1. 偏西風      2. 極東風      3. 偏東風      4. 貿易風

**問4** 先進国と発展途上国の間に存在する経済格差の是正を目指す取り組みのうち、発展途上国の農産物や製品を、生産者にとって公平かつ適正な価格で継続的に取引することにより、生産者の自立や生活改善を支援する仕組みを何というか。 (2021年 全国公立入試 類似)

1. デットスワップ      2. マイクロクレジット      3. フェアトレード      4. コモンファンド

**問5** 和歌山県広川町において、安政南海地震の津波被害を教訓とし、将来の津波の襲来に備えて海岸沿いに築かれた、昭和の南海地震でも津波の浸水を防ぐ効果を発揮した歴史的な防災施設の名称は何か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 広村堤防      2. 砂防堰堤      3. 輪中堤防      4. 霞堤防

**問6** ブラジルのアマゾン地方では、道路の整備に伴い奥地への開発が進んでいる。この地域において、森林を伐採・開墾して造成される農地で、近年、中国などへの輸出用飼料としての需要急増を背景に、栽培面積が著しく拡大している作物は何か。 (2014年 全国公立入試 類似)

1. 大麦      2. 小麦      3. 大豆      4. 綿花

**問7** 自然災害による被害の大きさ (R) は、危険源 (H)、[ ア ]、脆弱性 (V) の積で表される。このうち、災害が発生する可能性のある地域に存在する人口や資産の度合いを指し、危険な場所から安全な場所へ避難したり、居住地を移転したりすることによって直接的に減少させることができる要素 [ ア ] に当てはまる語句として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 曝露      2. 誘因      3. 脆弱      4. 素因

**問8** サハラ砂漠南縁の半乾燥地域に位置する内陸国で、近年、気候変動に伴う干ばつの頻発や、過度な人間活動による砂漠化の進行が原因で、森林面積の減少が著しい西アフリカの国はどこか。 (2014年 全国公立入試 類似)

1. モーリタニア      2. シエラレオネ      3. ブルキナファソ      4. ナイジェリア

**問9** 情報通信技術 (ICT) や電子商取引の普及は、世界規模での経済活動を活性化させた。しかし、情報インフラの整備状況や個人の利用能力の違いにより、国や地域、社会階層の間で情報技術を利用できる人とできない人の間に格差が生じている。この格差は所得格差の解消を妨げ、むしろ格差を固定化・拡大させる要因となっている。このような情報通信技術の利用機会や活用能力の違いによって生じる格差を何というか。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. デジタルデバイド      2. フェイクニュース      3. フィルターバブル      4. デジタルタトゥー

## 答え合わせ・解説 No.4

問1	<b>答え 1</b> <b>パークアンドライド</b>	都市部への自家用車の流入を抑制するための交通需要マネジメント（TDM）の手法である。郊外（パーク）で車を止め、公共交通機関（ライド）に乗り換えることで、都市部における排気ガスの削減や交通渋滞の緩和、さらには自動車からの人工排熱の抑制による熱環境の改善が期待される。
問2	<b>答え 4</b> <b>偏西風</b>	中緯度帯の上空では、年間を通じて西から東へと吹く恒常風が存在する。中国などの東アジア地域で発生した大気汚染物質は、この風や冬季の北西季節風に乗って東方に運ばれ、日本列島や朝鮮半島に酸性雨などの環境被害をもたらす。低緯度帯を東から西に吹く貿易風や、極地方の極東風とは異なる。
問3	<b>答え 1</b> <b>偏西風</b>	日本列島が位置する中緯度帯の上空には、年間を通じて西から東へと吹く強い風が存在する。このため、火山が噴火した際に放出される火山灰やガスは、火口から東側の地域へと運ばれやすく、ハザードマップ等でも東側に広く降下範囲が予測される。
問4	<b>答え 3</b> <b>フェアトレード</b>	発展途上国の生産者が生産した一次産品などを、市場原理に任せるのではなく、生産者の生活や労働環境に配慮した適正な価格で継続的に購入する仕組みをフェアトレードと呼ぶ。これにより、途上国の貧困削減や経済的自立、ひいては南北間の経済格差の是正を目指している。
問5	<b>答え 1</b> <b>広村堤防</b>	安政南海地震の津波被害の後、濱口梧陵らの主導によって海岸沿いに築かれた堤防である。内陸の微高地にある神社への避難経路の確保や、現代の避難タワーの整備などと並び、広川町における多重防御の津波対策の象徴的な歴史的遺構となっている。
問6	<b>答え 3</b> <b>大豆</b>	ブラジルでは、アマゾン河流域の熱帯林を伐採して大規模な農地開発が行われており、特に大豆の栽培や肉牛の放牧地としての利用が急速に拡大している。生産された大豆は、主に中国などの家畜の飼料用として輸出されている。
問7	<b>答え 1</b> <b>曝露</b>	自然災害のリスク（被害の大きさ）を評価する際、危険な場所にどれだけの人口や資産が置かれているかを示す要素が曝露（E）である。危険な場所から避難することや、安全な土地へ移転することは、危険にさらされる人や資産の量そのものを減らす行為であるため、曝露の削減に直接つながる。一方で、ハザードマップで危険源の位置を確認するだけでは、曝露自体を減少させることにはならない。
問8	<b>答え 3</b> <b>ブルキナファソ</b>	ブルキナファソは西アフリカの内陸国であり、国土の多くがサヘル地域に属している。人口増加に伴う薪炭材の過剰採取や過耕作、過放牧に加え、気候変動による干ばつの頻発が重なり、砂漠化とそれに伴う森林面積の減少が深刻な環境問題となっている。
問9	<b>答え 1</b> <b>デジタルデバイド</b>	情報通信技術（ICT）の急速な発展と普及は、ビジネスの効率化や生活の利便性向上をもたらした。しかし、インターネット環境の整備状況や、パソコン・スマートフォンなどの端末を使いこなすリテラシーの有無によって、個人や地域、国家間に新たな格差が生じている。この格差をデジタルデバイド（情報格差）と呼び、これが新たな所得格差や機会の不平等を生み出す要因として、現代の地理的・社会的な重要課題となっている。